

平成27年度行政事業レビューシート（金融庁）

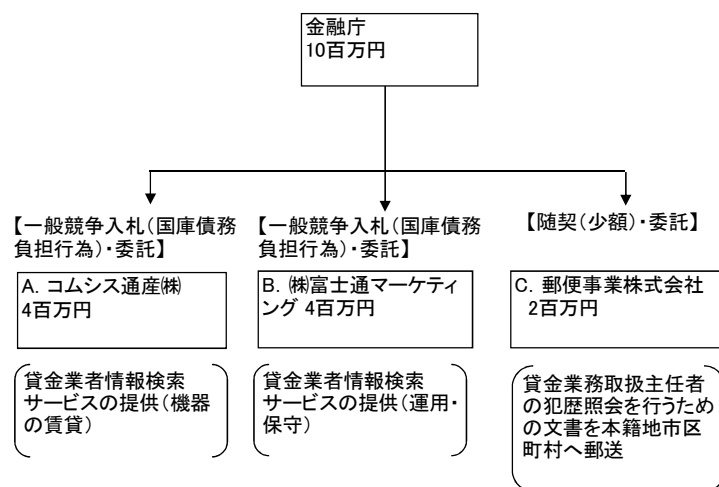
事業名	貸金業者監督のための経費			担当部局庁	監督局			作成責任者	
事業開始年度	平成15年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	総務課金融会社室			森 拓光	
会計区分	一般会計			政策・施策名	政策Ⅱ・・・利用者の視点に立った金融サービスの質の向上 施策1・・・利用者が安心して金融サービスを受けられるための制度・環境整備				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	貸金業法第12条の3 貸金業法第24条の25 貸金業法第24条の27			関係する計画、 通知等	-				
主要政策・施策				主要経費					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	○貸金業者情報検索サービスにより貸金業者の最新の登録情報を一元的に提供することにより、無登録業者(ヤミ金)の利用の未然防止を図り、もって資金需要者等の利益の保護を図ること。 ○貸金業務取扱主任者登録制度の適切な運用(登録に際し、法令が定める登録拒否要件に係る審査を行い、抵触した者を排除すること)により、貸金業を営む者の業務の適正な運営の確保を図ること。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	○金融庁ウェブサイトにおいて、貸金業法に基づき登録を受けている貸金業者の登録情報を検索できるサービスを運用する。 ○貸金業務取扱主任者に係る登録申請者が貸金業法上の登録拒否要件に該当するか否かを審査するため、登録申請者の本籍地市区町村に対し、簡易書留により、犯歴を照会し、回答を返送してもらう。								
実施方法	委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	25	24	15	24			
		補正予算		▲ 7					
		前年度から繰越し							
		翌年度へ繰越し							
		予備費等							
	計		25	17	15	24	0		
	執行額		15	11	10				
執行率 (%)		60%	65%	67%					
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 年度	
	資金需要者等の利益の保護、及び貸金業を営む者の業務の適正な運営の確保を図る。	貸金業者に係る苦情等受付件数	成果実績	件	17,675	15,227	14,807		
			目標値	-	-	-	-		
			達成度	%	-	-	-		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 年度	
	資金需要者等の利益の保護、及び貸金業を営む者の業務の適正な運営の確保を図る。	貸金業者に係る苦情等受付件数のうち、無登録業者に係る件数	成果実績	件	6,290	6,276	6,220		
			目標値	-	-	-	-		
			達成度	%	-	-	-		
定量的な目標 が設定できない理由 及び定 性的な成果目 標	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と24～26年度の達成状況・実績					
	本事業の目的は、上記のとおり資金需要者等の利益の保護、及び貸金業を営む者の業務の適正な運営の確保を図ることであり、定量的な目標を示すのは困難。			本事業の定性的な目標は、貸金業者情報検索サービスの適切な運用により貸金業者の登録情報を常時確認できる仕組みを提供すること、及び貸金業務取扱主任者に係る登録申請について貸金業法上の登録拒否要件に係る審査を実施することであり、いずれも達成した。					
	代替目標	代替指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 年度	
	<貸金業者情報検索サービスの運用経費> 無登録業者(ヤミ金)の利用の未然防止を図るため、貸金業者の最新の登録情報を容易かつ迅速に確認できる環境を整備する。	貸金業者情報検索サービスへのアクセス件数	実績	件	13,737	21,842	26,490		
			目標値	-	-	-	-		
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績		達成度	%	-	-	-			
		代替目標	代替指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 年度
		<貸金業務取扱主任者登録に係る経費> 貸金業務取扱主任者の登録申請がなされた場合には、法令に基づく審査を行うため、すべからず犯歴照会を行う。	<目標値> 犯歴照会者数/登録申請者数=100%とする。	実績	%	100	100	100	
目標値	%			100	100	100			
達成度	%			100%	100%	100%			

活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標			単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
		<貸金業者情報検索サービスの運用経費> 貸金業者情報検索サービスの稼働率 (計画停止時間(メンテナンス作業等によりサービスを停止する時間)については停止時間として含めない)		活動実績	%	100	100	100	
				当初見込み	%	100	100	100	100
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標			単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
		<貸金業務取扱主任者登録に係る経費> 犯歴照会件数		活動実績	件	17,824	8,071	3,940	
				当初見込み	件	26,990	18,958	8,072	17,485
単位当たりコスト		算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
		<貸金業務取扱主任者登録に係る経費> 執行実績／犯歴照会件数		単位当たりコスト	千円	0.4	0.4	0.6	0.9
				計算式	千円/件	8016/17824	3583/8071	2366/3940	16146/17485
平成27・28年度予算内訳 (単位：百万円)	費 目		27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	貸金業者情報検索サービス運用経費		8						
	貸金業務取扱主任者登録経費		16						
	計		24	0					

事業所管部局による点検・改善			
	項 目	評 価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	○本事業の目的である資金需要者等の利益の保護及び貸金業者の業務の適正な運営の確保を図ることについては、貸金業法第一条(目的規定)に沿ったもの。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	○貸金業者情報検索サービスは、都道府県に委ねた場合、当該都道府県の所管業者の情報しか提供されないシステムが多数併存することになり、資金需要者等は、各都道府県それぞれに照会しなければならなくなる。 政策目的の達成及びコスト両面から、国が一元的に情報提供を行うことが適切である。 また、市町村と民間業者は、そもそも登録業者の情報を把握し得ない立場にあり、事業そのものの実施が困難。 ○貸金業務取扱主任者登録に係る審査事務は、貸金業法上、国が行うとして、日本貸金業協会に委任できるとされているが、個人情報保護法上の機微情報に該当する犯歴については、公的機関ではない同協会が取り扱うことができないことから、国が行う以外にない。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	○貸金業者に関する最新の登録情報を常時確認できる仕組みを一元的に提供することは、無登録業者(ヤミ金)の利用の未然防止に資するものであり、資金需要者等の利益の保護という政策目的達成のために必要かつ適切で、優先度は高い。 ○貸金業務取扱主任者の登録拒否要件に係る審査は、貸金業法に基づくもの。犯歴照会が行えないと、登録制度の運用が滞り、貸金業を営む者の適正な業務運営の確保が困難となることから、必要不可欠な事業であり、優先度は高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	○貸金業者情報検索サービスの運用経費については、一般競争入札により支出先を選定。 ○貸金業務取扱主任者の登録審査に際し入手する必要がある犯歴情報は、個人情報保護法上の機微情報に該当するため、その通信方法としては書留郵便以外に選択肢がなく、「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」(会計法29条の3第4項)に該当するため、随意契約としている。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	○仮に本検索サービスの利用者に直接経費の負担を求めることとした場合、本サービスの利用が低下し、無登録業者(ヤミ金)の利用の増加につながりかねず、本事業の目的である資金需要者等の利益の保護を図ることができなくなるおそれがあることから、国が運用経費を負担することが妥当。 ○貸金業務取扱主任者の登録に際して行う犯歴照会の目的(登録制度の運用を通じた貸金業を営む者の適正な業務運営の確保)に照らすと、国が負担することが妥当。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	○事業目的に即さない費目・使途はない。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか	○	○貸金業務取扱主任者登録制度の運用業務うち、国が実施しなければならない事業以外は、日本貸金業協会に委任されており、コスト削減や効率化が図られている。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか	-	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	○(上記のとおり)他の手段・方法等により実施した場合には、事業目的を達成することができない。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	○過去の犯歴照会件数の当初見込みは活動実績を上回っているが、これは、過少な見込みを基に立てた予算が万一年度中に不足してしまった場合、貸金業務取扱主任者制度の運用そのものに支障を来すこととなるため。
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	○貸金業者情報検索サービスへのアクセス数は年々増加している。 ○貸金業務取扱主任者の登録・審査事務は、滞りなく実施できている。
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名

点検・改善結果	点検結果	貸金業者監督のための経費は、金融サービスの利用者保護の枠組みの確保及び資金需要者の利益の保護のため、引き続き必要な予算を確保することが重要。特に、他の業態と異なり登録行政庁が多く、他業態よりも無登録業者(ヤミ金)がいまだ多数存在している状況の中、資金需要者等の保護を図るためには、各登録行政庁が業者の登録又は抹消が行われた際に当該登録行政庁自身が速やかに更新を行う本システムのような、網羅的な最新の登録情報を容易かつ迅速に検索できる一元的なサービスの提供が必要。				
	改善の方向性	各経費に関する契約については、引き続き可能な限り一般競争入札を実施し、経費削減を図っていく。				
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	7	平成23年度	6	平成24年度	6	
平成25年度	6	平成26年度	6			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」)
 においてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.コムシス通産(株)			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
賃貸料	貸金業者情報検索サービスの運用・保守	4			
計		4	計		0
B.富士通マーケティング			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
入件費・施設 管理費	貸金業者情報検索サービスの運用・保守	4			
計		4	計		0
C.郵便事業株式会社			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
通信費	貸金業務取扱主任者の犯歴照会を行うための文書を本籍地市区町村へ郵送	2			
計		2	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	コムシス通産(株)	金融庁ウェブサイトサーバ等の機材調達(貸金業者情報検索サーバ) 国庫債務負担行為(23年度)により実施	43		-

B

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)富士通マーケティング	金融庁ウェブサイトサーバ等の運用管理(貸金業者情報検索サーバ) 国庫債務負担行為(23年度)により実施	43		-

C

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	郵便事業株式会社	貸金業務取扱主任者の犯歴照会を行うための文書を本籍地市区町村へ 郵送	2	随意契約	-

平成27年度行政事業レビューシート (金融庁)

事業名	金融サービス利用者保護の推進			担当部局庁	総務企画局			作成責任者
事業開始年度	平成17年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	企画課			松尾 元信
会計区分	一般会計			政策・施策名	政策Ⅱ… 利用者の視点に立った金融サービスの質の向上 施策1… 利用者が安心して金融サービスを受けられるための制度・環境整備			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	多重債務問題改善プログラム			
主要政策・施策	犯罪被害者等施策			主要経費	その他の事項経費			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	金融サービスの利用者保護の仕組みが確保され、利用者による各種金融サービスの特性や利用者保護の仕組みについての理解を向上させる。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	○改正貸金業法の適切かつ円滑な施行のための周知及び多重債務改善プログラムに掲げられた施策の実施 ○振り込め詐欺救済法に基づく被害者への返金制度の周知 ○金融トラブル連絡協議会等の枠組みを利用した金融ADR(裁判外紛争解決)制度の円滑な運営							
実施方法	直接実施、委託・請負							
予算額・執行額 (単位:百万円)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	10	13	13	13		
		補正予算						
		前年度から繰越し						
		翌年度へ繰越し						
		予備費等						
	計		10	13	13	13	0	
	執行額		11	7	11			
執行率 (%)		110%	54%	85%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 年度
	貸金業者から5件以上無担保無保証借入れの残高がある人数が減少傾向となること	株式会社日本信用情報機構公表の貸金業者から5件以上無担保無保証借入の残高がある人数	成果実績	万人	29	17	14	
			目標値	万人	-	29	17	
			達成度	%	-	170.6%	121.4%	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 年度
	被害者からの返金申請の状況は犯罪の手口や摘発される事案の性格等により変動するもので目標値を設定することはそもそも困難である	被害者からの返金申請の件数を成果指標とした	成果実績	件数	-	12,721	16,310	
			目標値	件数	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	多重債務者対策に関する相談窓口の認知向上を図るためのポスター等配付部数	活動実績	部	-	992,000	870,000		
		当初見込み	部	-	2,329,640	1,075,000	926,000	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	振り込め詐欺救済法に基づく被害者への返金制度に係るインターネット広告の閲覧回数	活動実績	回	-	-	58,258,094		
		当初見込み	回	-	-	24,200,000	48,400,000	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	金融トラブル連絡調整協議会の開催	活動実績	回	6	2	2		
		当初見込み	回	6	6	6	6	

単位当たり コスト		算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
		ポスター等作成・輸送等経費／配付部数		単位当たり コスト	円	-	4.1	3	3
				計算式	/	-	4,032,000円 /992,000部	2,637,900円 /870,000部	2,637,900円 /870,000部
単位当たり コスト		算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
		インターネット広告掲載に係るコスト／広告閲覧回数		単位当たり コスト	円	-	-	0.1	0.07
				計算式	/	-	-	3,294,297円 /58,258,094回	3,528,360円/ 48,400,000回
単位当たり コスト		算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
		会議開催経費(諸謝金、委員等旅費)/開催回数		単位当たり コスト	円	88,053	56,136	69,202	67,902
				計算式	/	528,320円/2回	112,270円/2回	138,404円/2回	135,804円/2回
平成 27・28 年度予算 内訳 (単位：百万円)	費 目		27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	金融政策推進業務庁費		11.8						
	諸謝金		0.8						
	委員等旅費		0.2						
	計		12.8	0					

事業所管部局による点検・改善						
項 目			評 価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	本事業は、広く国民全体に対し、多重債務相談窓口や振り込み詐欺返金制度等の周知を行うものであり、社会のニーズを的確に反映しており、国が主導し、地方公共団体や金融機関と連携しつつ実施すべきものである。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	上記と同旨。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	上記と同旨。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	支出先の選定に当たっては入札を実施するなど競争性が確保されている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	受益者は金融サービスを受ける国民全般であり、負担関係は妥当である。		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	入札の実施等によりコストを削減しており妥当である。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	費目・使途は事業目的に即し真に必要なものとなっている。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-		
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		○	多重相談窓口や振り込み詐欺返金制度の周知については、インターネット広告を利用するなど低コストで効率的に周知するための工夫を行っている。		
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	成果実績欄に記載のとおり多重債務者は減少傾向にある。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	インターネット広告を利用するなど低コストで効率的に周知するための工夫を行っている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	活動指標欄に記載のとおり見合ったものとなっている。		
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	作成したリーフレット、ポスター等は金融機関等に配布され活用されている。		
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
点検・改善結果	点検結果	多重債務者のための相談等の枠組みの整備等に要する経費については、ポスター・リーフレットの改訂・配布等による多重債務相談窓口の周知、改正貸金業法等の制度に係る普及活動を適切に実施するために必要な経費であり、貸金業者から5件以上無担保無保証借入の残高がある人数は14万人まで減少しているなど、一定の成果がみられるものの、多額の借入残高を有する層は現在も相当数存在していることから、引き続き、多重債務相談窓口の存在・利用について広く国民に周知されるよう広報活動を推進することが重要である。 振り込み詐欺救済法に基づく返金制度の周知を行った結果、適切に被害者からの返金申請が行われていると考えられる。 金融ADR制度が法制化された際の附帯決議において、金融トラブル連絡調整協議会等の枠組みを活用し、金融ADRの関係機関における金融商品・サービスに関する苦情・紛争に係る情報の共有化・連携強化等を図ることが指摘されている。指定紛争解決機関、業界団体に加え、学識経験者、弁護士、消費者団体等で構成される当該協議会での議論(各指定紛争解決機関の業務実施状況や利用者利便の向上に向けた取組み等)を踏まえ、指定紛争解決機関は業務の改善を行うなど、当該協議会において金融ADR制度の運用状況のフォローアップが効果的に実施されている。こうしたことから、引き続き当該協議会の開催は、金融ADR制度の改善・発展の推進役として重要な役割を果たしていくために必要である。				
	改善の方向性	○各経費に関する契約については、引き続き可能な限り一般競争入札を実施し、経費削減を図っていく。 ○リーフレット等については、過去に作成したデザインの再利用を図るとともに、配付にあたっては、引き続き事前に各配付先の必要部数を把握することにより重点化、効率化を図る。				
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	7	平成23年度	6	平成24年度	6	
平成25年度	6	平成26年度	6			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

金融庁
11百万円

（金融行政の推進に必要）

【随意契約（少額）・委託】

A. メディアランド(株)
他1先:1百万円

（多重債務者相談窓口の広報）

【随意契約（少額）・委託】

B. (株)miura-ori lab
2百万円

（多重債務者相談窓口の広報）

【一般競争入札・委託】

C. (株)インテージ
3百万円

（貸金業利用者に対する調査）

【委員等への支給】

D. 個人A 他10人
0. 3百万円

（多重債務相談に係る人材の育成のための研修講師）

【随意契約（少額）・委託】

E. 日本郵便(株)
0. 2百万円

（多重債務者相談窓口の広報（リーフレットの掲出））

【一般競争入札・委託】

F. シエンブレ(株)
3百万円

（振り込め詐欺救済に関する広報経費）

【委員等への支給】

G. 個人K(金融トラブル連絡調整協議会委員)他3名 0. 1百万円

（金融トラブル連絡調整協議会の開催）

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.メディアランド(株)			E.日本郵便株式会社		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	※100万円以下			※100万円以下	
計		0	計		0
B.(株)miura-ori lab			F.シエンプレ(株)		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	広報経費	2	事業費	広告経費	3
計		2	計		3
C.(株)インテージ			G. 個人K		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	WEB調査費	3		※100万円以下	
計		3	計		0
D.個人A			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	※100万円以下				
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	メディアランド(株)	多重債務者相談強化キャンペーン2014の広報のためのポスターの製作及び発送	1	随意契約	
2	敷島印刷(株)	多重債務相談窓口周知ポスター及びリーフレットの製作及び発送	0.4	随意契約	

B

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株miura-ori lab	多重債務相談窓口周知ポスター及びリーフレットの増刷及び発送	2	6	-

C

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株インテージ	貸金業利用者に対する調査・研究	3	3	-

D

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	個人A	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師謝金 ・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師旅費	0.1	-	-
2	個人B	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師謝金 ・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師旅費	0.1	-	-
3	個人C	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師旅費	0	-	-
4	個人D	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師謝金 ・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師旅費	0	-	-
5	個人E	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師旅費	0	-	-
6	個人F	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師謝金	0	-	-
7	個人G	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師謝金 ・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師旅費	0	-	-
8	個人H	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師謝金 ・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師旅費	0	-	-
9	個人I	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師謝金	0	-	-
10	個人J	・多重債務相談に係る人材の育成に伴う講師謝金	0	-	-

E

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本郵便株式会社	多重債務者相談窓口の広報(リーフレットの掲出)	0.2	随意契約	-

F

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	シエンブレ(株)	振り込め詐欺救済法等に関するインターネット広告の実施	3	3	-

G

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	個人K	金融トラブル連絡調整協議会の出席	0	-	-
2	個人L	金融トラブル連絡調整協議会の出席	0	-	-
3	個人M	金融トラブル連絡調整協議会の出席	0	-	-
4	個人N	金融トラブル連絡調整協議会の出席	0	-	-